

## NPO法人の「25年問題」への 取り組み

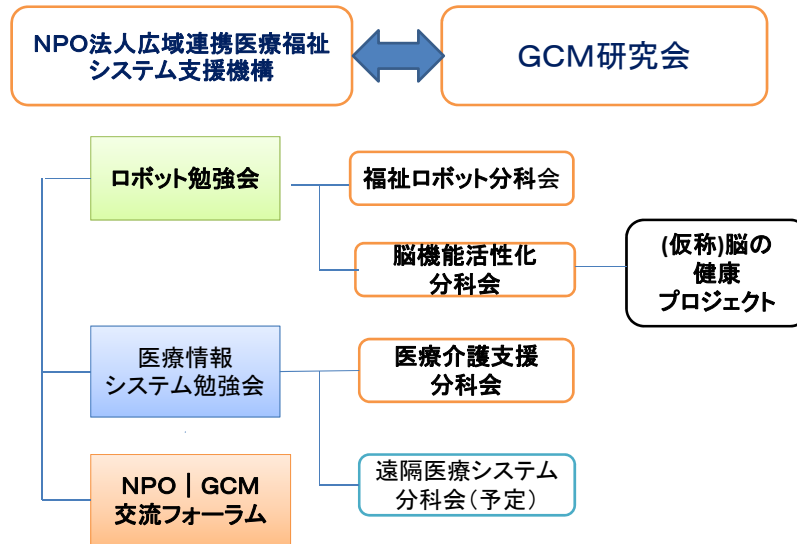
### 背景

1. 団塊世代が後期高齢者に達する  
2025年を控えて医療費の需給バランスが崩れ、財政危機が懸念されている
2. NPOは主としてICT分野からこの問題にチャレンジしている。

## NPOの具体的対応

1. 研究会(GCM)、交流フォーラムの定期開催
2. 勉強会の随時開催
  - ①ロボット勉強会  
福祉ロボット分科会、脳機能活性化分科会(脳の健康プロジェクト)
  - ②医療情報システム勉強会  
医療介護分科会、遠隔医療システム分科会(予定)
3. 福祉社会貢献事業へ参入(構想企画段階)
  - ①生活支援(QOL向上)サービス事業
  - ②介護情報交流推進サービス事業

## GCM/NPOの研究活動体制



## 分科会活動報告

- 1.医療介護支援分科会
- 2.脳機能活性化分科会  
(脳の健康プロジェクト)
- 3.福祉ロボット分科会
- 4.遠隔医療システム分科会(設立予定)

## 医療介護支援分科会

「医療介護総合確保推進法」の成立、施行を受けて、NPOとして主としてICT分野から「日本・エストニア/EU デジタルソサエティ推進協議会」と連携して2017年2月より地域医療介護問題に取り組んでいる。

主な成果

1. ブロックチェーンによる健康データサービス創出事業のリファレンスモデル構築した。
2. エストニアとのグローバル連携の検討

## 脳の健康プロジェクト

2025年に認知症および軽度認知機能障害(MCI)が1,300万人(7人に1人)に達する見込みで、ICTの分野からMCIの予防策を提案する。これまで脳機能活性化分科会として活動してきたが、目指すべき目的が明確になり、2017年9月よりプロジェクトとした。主な成果

1. ゆらぎ映像による1/f効果(脳機能)の評価
2. VRの導入検討  
⇒東京都市大学宮地教授の協力が得られた。
3. 音楽療法の導入検討  
⇒東海大学教養学部 近藤真由准教授と連携予定

## 福祉ロボット分科会

高齢者や障害者を支援する生活支援ロボットの普及を目指して設立したが、2017年9月より新たにリハビリテーション機器を含めて活動している。

- ・リハビリ機器は東海大学情報理工学部 大友高行先生が研究されている「上肢向け可搬型多機能リハビリ機器」の実用性やデザインなど議論した。
- ・今後、早期の製品化を目指す。

## 遠隔医療システム分科会 (設立予定)

2025年問題に向けて政府は総医療介護費抑制の一環として患者の病院⇒在宅を進めている。

その目的にNPOが資するための活動として「遠隔医療システム分科会」の設立を検討する。

## 遠隔医療システム分科会

### 主なテーマ案

1. 高齢者・障害者の健康管理  
モバイル生体測定モニタリングシステム
2. 認知症など高齢者見守り支援
3. 遠隔医療相談
4. スマホによる在宅医療サポートシステム
5. 在宅リハビリテーションシステム

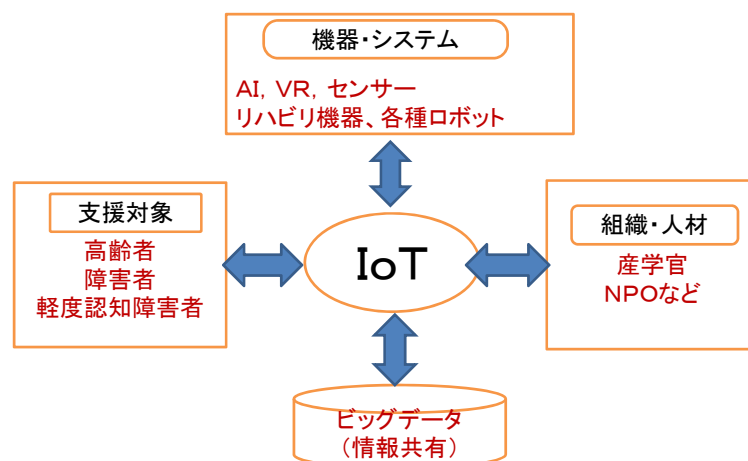
## NPO事業化構想

2025年問題を見据えて  
NPOが独自に  
福祉社会貢献事業への参入を  
企画する

## 福祉社会貢献事業モデル創出

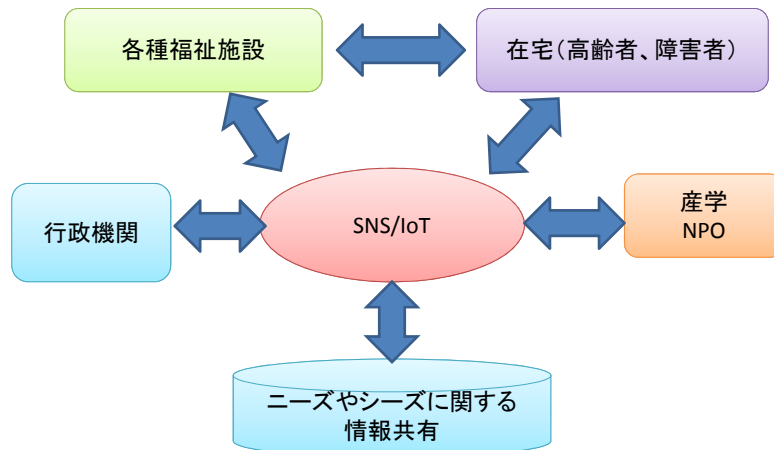
NPOならではの貢献事業を企画し、  
ビジネスモデルを生み出す。  
それには、NPOが得意とする  
組織間連携、産学官連携、異業種間  
連携の推進役として事業化を企画す  
る。

### ①生活支援(QOL向上)サービス事業



「もの」の結合や連携からQOL向上の新しいビジネスモデルを創出する

## ②介護情報交流推進事業(イメージ)



## 介護情報交流推進事業から 生じるメリット

- (1)福祉各種施設、在宅  
大学や企業の支援が得られる。医学・福祉系大学からは介護等に関するノウハウ、工学系からは技術サポートやアドバイスが得られる。また、施設間で交流を進め易くなる。
- (2)行政機関  
臨床現場の現状が把握でき、問題点などの理解が早まる。また、産学の支援が得られる。
- (3)大学  
臨床現場との交流により、研究を進めるうえで、プラスとなる。
- (4)企業  
機器開発やシステム開発を進めるうえで、参考になり、開発が早まる。

## 目指す方向性

- 単なる情報提供サービスは既に実績のあるyahooなどに任せ、NPOは組織間、業種間の情報交流と情報共有の促進に貢献する。
- そこから、ICT関連のビジネスモデルを創出する。
- 課題は多いと思われるが、チャレンジすべきテーマと言える。
- NPO内に新しい分科会の設立を検討する。

## おわりに

NPOはこれからもGCMと連携して  
25年問題に取り組んでいきます。  
ご支援よろしくお願い致します。  
ご清聴ありがとうございました。